

この本を書きながら原稿を読み返してみると、毎日教案を練りながらクラスで学生を指導して、何か問題があればすぐに修正する、そうやって学期中は忙しく過ごしていたことを思い出す。本書に収められた論文は、中国で学生を指導しながら作られたもので、一緒に勉強した学生たちの顔も随所に浮かんでくる。

中国各地を移動して日本語の教授法に取り組むうちに、使用した教材や資料が豊富になった。こうして無事に教授法の著作が作れたことで、中国での実績に誇りが持てると思う。また、学生のみならず、中国人の先生方とも交流が深まり、中国での私の生活に大いに参考になったのも事実である。

しかし、人材育成については思うことがある。20世紀型の文法訳読法の時代は終わり、21世紀型の育成プログラムとして、やはりシステマチックで、縦の各自の専門と合わせて、まとめるとこうなるといったレビューや調整するとよい。日常の評価項目が増えれば増えるほど、各自の個性や調整管理の能力が高まっていく。実際に中国でも「共生」といって、

個人差はあるだろうが、こうした日常の努力こそが、グローバル化に対応し、所属のみならず、第三者からの評価にもつながっていくと思

本を問わず、当てはまることであり、今後とも引き続き取り組むべきことだ。最後に、この本が少しでも役に立つことを祈る。森鷗外教授法を研究している人、そして中国語話者向けの教授法から森鷗外のデータベースまで、

日语教育计划书

面向中国人的日语教学法与
森鸥外小说的数据库应用

日本語教育のためのプログラム

中国語話者向けの教授法から森鷗外のデータベースまで

【日本】花村嘉英 著



东南大学出版社
SOUTHEAST UNIVERSITY PRESS

日语教育计划书

——面向中国人的日语教学法与
森鸥外小说的数据库应用

日本語教育のためのプログラム

中国語話者向けの教授法から

森鷗外のデータベースまで

[日本]花村嘉英 著



东南大学出版社
SOUTHEAST UNIVERSITY PRESS

• 南京 •

图书在版编目(CIP)数据

日语教育计划书:面向中国人的日语教学法与森
鸥外小说的数据库应用:日文/(日)花村嘉英著. —南
京:东南大学出版社,2017. 6

ISBN 978—7—5641—5621—3

I. ①日… II. ①花… III. ①日语—学习方法②森鸥
外(1862—1922)—小说研究—日本 IV. ①H369.3
②I313.074

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2017)第 098807 号

日语教育计划书——面向中国人的日语教学法与森鸥外小说的数据库应用

出版发行 东南大学出版社

出版人 江建中

社址 南京市四牌楼2号

邮编 210096

经 销 全国各地新华书店

印 刷 虎彩印艺股份有限公司

开 本 850 mm×1168 mm 1/32

印 张 4.5

字 数 90千字

版 次 2017年6月第1版

印 次 2017年6月第1次印刷

书 号 ISBN 978—7—5641—5621—3

印 数 1—1001册

定 价 30.00元

(本社图书若有印装质量问题,请直接与营销部联系。电话:025-83791830)

まえがき

2009年に中国の武漢で始まった日本語教育の仕事も、かれこれ8年が経過した。その間に、武漢を中心に、東は上海、寧波、西は重慶、南は厦門、北は北京、天津、延辺と中国各地を転々とし、中国日本語教学研究会という学会を含めると、10都市余りを訪れた。その間に作成した論文の中から6本を厳選して、この本に収録している。著作の構成は、基礎編と応用編に分かれている。

基礎編は、各地で教えた教案をもとに日本語の教授法のレポートをまとめたもので、それぞれ学会や研究会で発表したものである。時計回りに、日本語の会話、読み書き、訳すという流れになっている。また、応用編は、元々ドイツ語が専攻であるため興味があつた森鷗外の歴史小説を使用して、データベースを作成する文学分析について考察している。

そこで、論文の配列は、縦に人文科学の教授法を想定し、横に平易な計算文学の試論を置き、全体としてLの

イメージになっている。どこから読み始めてもよいが、一応筆者の工夫が配列に見られることをお伝えしておく。また、重ねて読む機会があれば、長い論文から始めるのもよいであろう。

2012年の夏に転期がおとずれた。名古屋大学で開催された国際日本語研究大会に参加したとき、多くの参加者がいるにも関わらず、依然として文系と理系の共生は進んでいないと感じ、共生について初めて試みるとしたら、何をどのくらい試せばよいのか説明しようと思った。

そこで、Tの逆さの認知科学を崩して、言語と情報の認知を縦横別々に置いたL字の分析について説明していく。Lの分析により見えてくるものは、作家の脳の活動(執筆脳)を探るシナジー・共生のメタファーである。これまでに、「トーマス・マンとファジィ」、鲁迅とカオス」そして今回の「森鷗外と感情」という3つのシナジーのメタファーを提案している。データベースを作る文学分析もようやく軌道に乗ってきた。

データベースを作成する文学分析は、マクロのステージである。マクロとは、地球規模とフォーマットのシフトを評価の項目とする。こうすると、どの系列が専門であれ、こばれる人はいないし、Lの向きは違えど、非専門

の副専攻についても、手つかずのブラックボックスを消していくイメージが作れることであろう。そのためには、シナジー・共生の組み合わせを2つ3つ調節するとよい。

シナジー論とは、文理の組み合わせを増やしていくことである。例えば、私の場合、機械翻訳、文学とデータベース、心理とメディカル、文化と栄養などがそれに当たる。3つの組み合わせが調節できれば、手つかずの系列が消えてブラックボックスがなくなり、横のスライドもスムーズになる。マクロにバランスを整える際、2×2のルールでよいが、3つ目の調整がシナジーのメタファーの山になる。

読者の皆さんにも、文学のマクロの分析を目指して本著と向き合ってもらいたい。人の目では見えないデータベースの作成を伴う文学分析の面白さが次第に分かってくると思う。

2017年6月
花村嘉英

著者紹介

花村嘉英(はなむら よしひさ)

1961年生まれ、立教大学大学院博士課程(ドイツ語学専攻)在学中に渡独。

1989年からドイツ・チュービンゲン大学に留学し、同大学院博士課程で言語学(意味論)を専攻。帰国後、技術文(ドイツ語、英語)の機械翻訳に従事する。

2009年より中国の大学で日本語を教える傍ら、比較言語学(ドイツ語、英語、中国語、日本語)、文体論、シナジー論、翻訳学の研究を進める。テーマは、データベースを作成するテキスト共生に基づいたマクロの文学分析である。

著書に「計算文学入門—Thomas Mannのイロニーはファジィ推論といえるのか?」(新風舎)、*「从认知语言学的角度浅析鲁迅作品—鲁迅をシナジーで読む」*(华东理工大学出版社)、訳書にゲーテ「イタリア紀行」(共訳監修、バベル出版)がある。

論文には「論理文法の基礎—主要部駆動句構造文法のドイツ語への適用」、[サピアの『言語』と魯迅の『阿Q正伝』—魯迅とカオス]などがある。また、論文訳に「Chaotic effect expected from “A Madman’s Diary”—Consideration from cognitive linguistics」などがある。

データベースについては、森鷗外、魯迅、トーマス・マン、ナディン・ゴードイマが中心である。

主な資格に、日本成人病予防協会(JAPA)健康管理士一般指導員(2015年3月認定)、健康管理能力検定1級取得(2015年3月)、予防医学・代替医療振興協会(P&A)予防医学指導士(2015年12月認定)、代替医療カウンセラー(2016年4月認定)、エイブス・メディカル翻訳英和上級修了(2016年3月)、認知症予防改善医療団(DMC)認知症ケアカウンセラー(2016年12月認定)、日本成人病予防協会健康管理士一般指導員ゴールド(2017年4月認定)などがある。

所属研究会は、日本語教育学会のテーマ研究会「中国語話者のための日本語教育研究会」、日本成人病予防協会である。

目 次

第一部 日本語教育のためのプログラム —基礎編—

- 序 章 日本語の教授法の取り組み / 3
- 第一章 『話す』
日本語の会話や作文からやさしい翻訳へ—
中国人に日本語を教授する / 7
- 第二章 『読む・書く』
中国人の学生に日本語の読み書きを教授する
—要約文の作成について / 27
- 第三章 『訳す』
中日翻訳の高速化—
比較言語学からの考察 / 47
- 第四章 『シナジー・共生』
人文科学のための人材育成について / 63

第二部 日本語教育のためのプログラム —応用編—

序 章 日本語教育を通してシナジー・共生を考
える / 85

第一章 森鷗外の「山椒大夫」のデータベース化と
その分析 / 91

第二章 森鷗外の「佐橋甚五郎」のデータベースと
バラツキによる分析 / 117

あとがき / 133

第一部

日本語教育のためのプログラム

—基礎編—

序章 日本語の教授法の取り組み

日本語教育の現場で働きながら書いたレポートをまとめて、関係者の方たちに私の仕事を伝えていこうと思う。基礎編は4部構成である。

第一章の「話す」は、2009年3月から2011年1月にかけて、武漢外語外事職業学院日本語学科で担当したクラスの教案をまとめた論文である。

第二章の「読む・書く」は、2012年2月から2013年1月にかけて、天津外国語

我想通过从事日语教育工作时写的报告向读者讲述我的工作情况。基础篇由四部分组成。

第一章的“说”是从2009年3月到2011年1月，我在武汉外语外事职业学院日语系担任日语会话课程教师时，汇总的教案。

第二章的“读，写”是从2012年2月到2013年1月，我在天津外国语大学

大学(滨海校区)日本語学科で担当したクラスの教案を修正した論文である。また、第二章の内容は、2012年8月に名古屋大学で開催された日本語教育国際研究大会でも発表している。

第三章の「訳す」は、2011年8月に中国・延辺大学で開催された第二回中日朝鮮言語文化比較国際シンポジウムで発表した内容に加筆して、中日翻訳を比較言語学の視点(例えば、語順)から考察している。

第四章の「シナジー・共生」は、名古屋大学で開催された日本語教育国際研究大会(2012)の「研究でつながる広場」で意見を交わした内容とマクロを巡る現状の評価について述べた論文である。

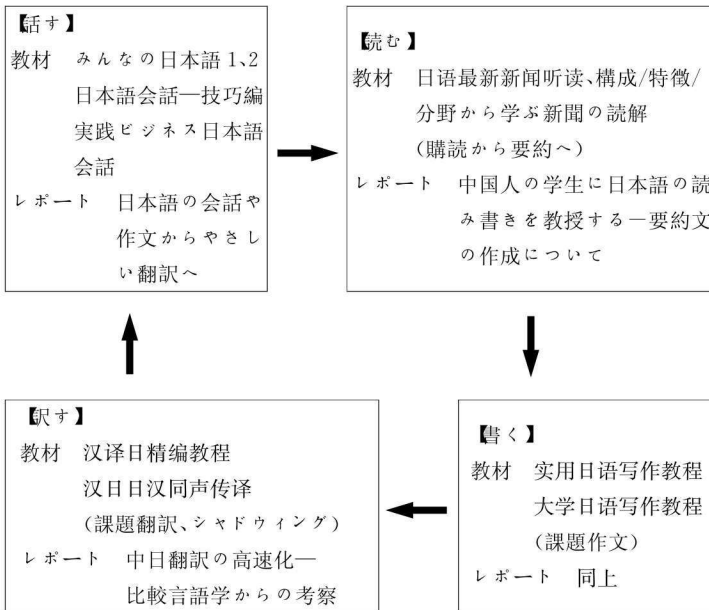
(滨海校区)外国语学院日语学部任教时用的教案。此外,第二章的内容已于2012年8月在日本名古屋大学举办的“日语教育国际研究大会”上发表。

第三章的“翻译”是2011年8月我在延边大学举办的第二届“中日朝鲜语言文化比较国际研讨会”上发表的内容,主要从比较语言学的视点(例如语序)来考察中日翻译。

第四章的“协作与共生”是2012年8月在日本名古屋大学举办的“日语教育国际研究大会”的“研究广场”上讨论的内容,以及从人文科学的视点来论述的宏观评价。

それぞれの論文を作成した時点で問題解決を試みているため、多少記事が古い箇所もある。その点は了承してもらいたい。また、中国の大学で実践している日本語の教授法の全体像については、次の図に示した通りである。

写论文的时候,为了解决问题,記事多少有陈旧的地方,希望读者谅解。另外,我在中国的大学所采取的日语教学法如下图所示。



日本語教育のためのサイクル

4つのブロックを時計回りに何度も回りながら、教授法の実務のみならず、論文も作成して実績を整えている。こうすることにより、担当クラスの教案を作る際にも、教材だけではなく、自分のアイデアでクラスを管理できるようになっていく。

各ブロックには、これまでに扱った教材と作成した論文が書かれている。今後どこかのブロックの実績だけが増えていくことがないように、バランスを考えたしながら教授法の仕事に取り組んでいく。

多次顺时针旋转四个板块,我整理出了教学法,也写了相关论文。如此,我在编写教案的时候,不仅能掌握教材,也能按照自己的思路管理班级。

各板块中标明了已使用的教材和已完成的论文。今后我会考虑各板块间的平衡,继续致力于完善教学法。

第一章 『話す』

日本語の会話や作文からやさしい翻訳へー中国人に日本語を教授する

【要旨】

2009年3月から2年間、武漢外語外事職業学院で日本語のクラスを担当した。担当科目は、1年生と2年生のための基礎会話と2年生の後半から3年生にかけて勉強するビジネス会話である。中国人に日本語の会話や作文を教授する際に、効果が上がると思われる方法について、教案を作りなが

【摘要】

自2009年3月起的2年时间里,我在武汉外语外事职业学院执教,承担的科目是大学1、2年级学生的基础会话课程和大学2、3年级(第4、5学期)学生的商务会话课程。我在教中国学生日语会话和作文的时候,经常会一边编写教案一边考虑提升效果的方法。尽管如此,每个学

ら常に考えている。しかし、学期の毎に修正や改良が必要になる。まず、私の教案の作り方について説明し、次に会話や作文からやさしい翻訳まで全体的に関連づけて話を進めていく。

【キーワード】

教案の作成、場面のイメージ作り、会話や作文から翻訳へ

【关键词】

教案的编写,创造情景模拟的环境,从会话、作文到翻译



1. 教案の作成方法

1.1 日本語の基礎会話

「みんなの日本語 1」と「みんなの日本語 2」の教案は、概ね作業内容が同じである。無論、随時内容を動かしながら授業を進めるため、異なる点も出てくる。まず、学期毎に1週間のコマ数を確認してから、時間の配分を決める。ここでは、一課を4コマで終えるケース(2コマ×2